



タミル・ナド州概要

2026年6月
在チェンナイ総領事館

1 基礎データ

- * 州都: チェンナイ(1996年にマドラスから改称)
- * 人口: 7,745万人(2026年4月推計)
- * 面積: 13万58km²(県(District): 38)

- * 識字率: 85.5%(男性: 90%、女性: 81.3%)(2023-24年)
- * 宗教別人口比率: ヒンドゥー教: 87.58%、イスラム教: 5.86%、キリスト教: 6.12%(2011年)
- * 主要言語: タミル語

2 政治

(1) 州政府

- * 州知事: ラジェンドラ・アーレカル
(Rajendra Arlekar)(2026年3月～)
- * 州首相: C. ジョセフ ヴィジャイ
(C. Joseph Vijay)(TVK)(2026年5月～)



ヴィジャイ州首相

(2) 州議会: 一院制(任期5年、234議席) (2031年4月任期満了)

- * 与党: タミル・ナド勝利党(TVK)107
 कांग्रेस(INC)5、解放パンサー党(VCK)2
 インド共産党(CPI)2、インド共産党マルクス主義(CPI(M))2
 インド統一ムスリム連盟(IUML)2
- * 野党: ドラビダ進歩連盟(DMK)59、
 全印ドラビダ進歩連盟(AIADMK)43、インド人民党(BJP)1など

(3) 概況

2026年4月の州議会議員選挙で、俳優出身のヴィジャイ党首率いるTVKが第一党となった。しかし、過半数に至らなかったため、連立政権樹立のための協議を各党と実施。その結果、 कांग्रेसがDMKとの同盟から外れ、TVKに協力することとなったほか、DMKと同盟を組む左派政党等がTVKへの支持を表明。これらの党からの支持を得て、ヴィジャイ政権が誕生した。今後の政権運営が注目される。

3 経済

(1) 主要指標

- * 名目州内総生産(GSDP): 35兆290億ルピー(2025年度)
 ※州別で第2位
- * 1人当たり所得: 40万8027ルピー(2025年度)
- * 実質GSDP前年度比成長率: 12.83%(2025年度)
 ←15.4%(2024年度)

(2) 特徴

比較的良好な港湾等のインフラ・立地条件及び豊富で比較的質の高い労働力に支えられ、経済規模は南部諸州最大。

主要産業は、自動車・自動車部品、電子機器、IT、繊維、化学、製薬など。自動車部品生産高はインド全体の42%を占める(2024年度)。工場数は52,614と州別で最多(2024年度)。「インドのデトロイト」とも呼ばれ、州政府はあらゆるセクターの投資誘致に積極的に取り組んでいる。

産業構成比は第一次産業10%、第二次産業39%、第三次産業51%(2025年度)。前年と比較すると第一次産業が3%減少した一方、第二次産業が4%増加し、製造業が拡大傾向にある。

(3) 日系企業の動向

チェンナイ及びその近郊を中心に多数の日系企業が進出(拠点数: 583(2024年10月時点))。チェンナイ日本商工会登録企業数は21社(2026年5月現在)。日系工業団地は2件(ワンハブ、マヒンドラ)。主な進出企業は、日産自動車、ヤマハ、三菱電機、オムロン、村田製作所、コマツ、味の素、三菱商事、住友商事、双日、三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、商船三井など。

4 タミル・ナド州との関係が深い地方自治体

- * 愛媛県、大阪府、神奈川県、高知県、富山県、広島県など